

にぎわい しあわせ あふれる躍動都市

～ ばらのまち 福山 ～



第四次福山市総合計画／後期基本計画

チャレンジふくやま 新たなる創造と飛躍



福 山 市

施策体系図

基本
理念

将来
都市像

基本方針

基本目標

人間環境都市

にぎわい しあわせ あふれる躍動都市 くばらのまち 福山

くチャレンジふくやま 新たな創造と飛躍

まちづくりの
共通の視点

- ①「協働のまちづくり」を実践し、地域力を高める
- ② 地方分権時代に対応した「自立」したまちづくりを進める
- ③「人づくり」を進め、新たな文化や産業などを創造する
- ④ 福山を積極的・継続的に発信し、「都市ブランド力」を高める

だれもが安心して安全で
快適に暮らせるまち
(安心・安全・環境)

子どもが健やかに育ち、
だれもが健康でいきいきと
暮らせるまち
(保健・福祉・医療)

多様に学び、
文化をはぐくむまち
(教育・文化)

産業の力みなぎる活力と
にぎわいのあるまち
(活力・交流)

市民とともにつくる
自立したまち
(協働・行革)

施策の大綱

(基本施策)

- 人間としての尊厳や自由を尊重する人権文化が根付いた地域社会の実現
- 安心して安全に生活できる地域社会づくりの推進
- 自然と調和したうるおいとゆとりのある環境と景観の形成
- 快適な暮らしを支える生活基盤の整備
- 地球にやさしい環境づくりと循環型社会の形成

- 子どもが健やかに生まれ育つ環境づくりの推進
- 高齢者の豊かで実りある生活を支えるまちづくりの推進
- 障がいのある人の自立と安心を支えるまちづくりの推進
- いきいきと暮らせる健康づくりの推進
- だれもが安心して生活できる社会保障制度の適正な運営

- しっかりと学び豊かな心をはぐくむ学校教育の充実
- 楽しく集い学びの輪を広げる生涯学習の推進
- 個性あふれる地域文化の継承と創造
- 健やかな心と体を培うスポーツ活動の推進

- 独自技術で明日をひらく工業振興と新産業の創造
- 人、モノ、情報が行き交う交流拠点機能の強化
- 拠点性と風格のある中心市街地の整備
- にぎわい楽しむまちを演出する商業の振興
- 地域資源で人をひきつける観光の振興と交流の促進
- やりがいをもち夢かなえる就業環境づくりの支援
- 地域特性を活かした農林水産業の振興
- 福山らしさの創出と発信

- 都市内分権の推進と市民と行政との協働による自立した都市の確立
- 自立を持続する健全な行財政運営の推進
- 中国・四国地方の拠点都市にふさわしい広域行政の推進

施策

- 人権文化が根付いたまちづくり
- 災害への備えの強化
- 暮らしの安心・安全の確保
- 良好な環境と景観の形成
- 快適な暮らしの場の形成
- 暮らしを支える地域交通の確保
- 安全・快適な水環境の確保
- 自然と共生する低炭素・循環型社会の構築

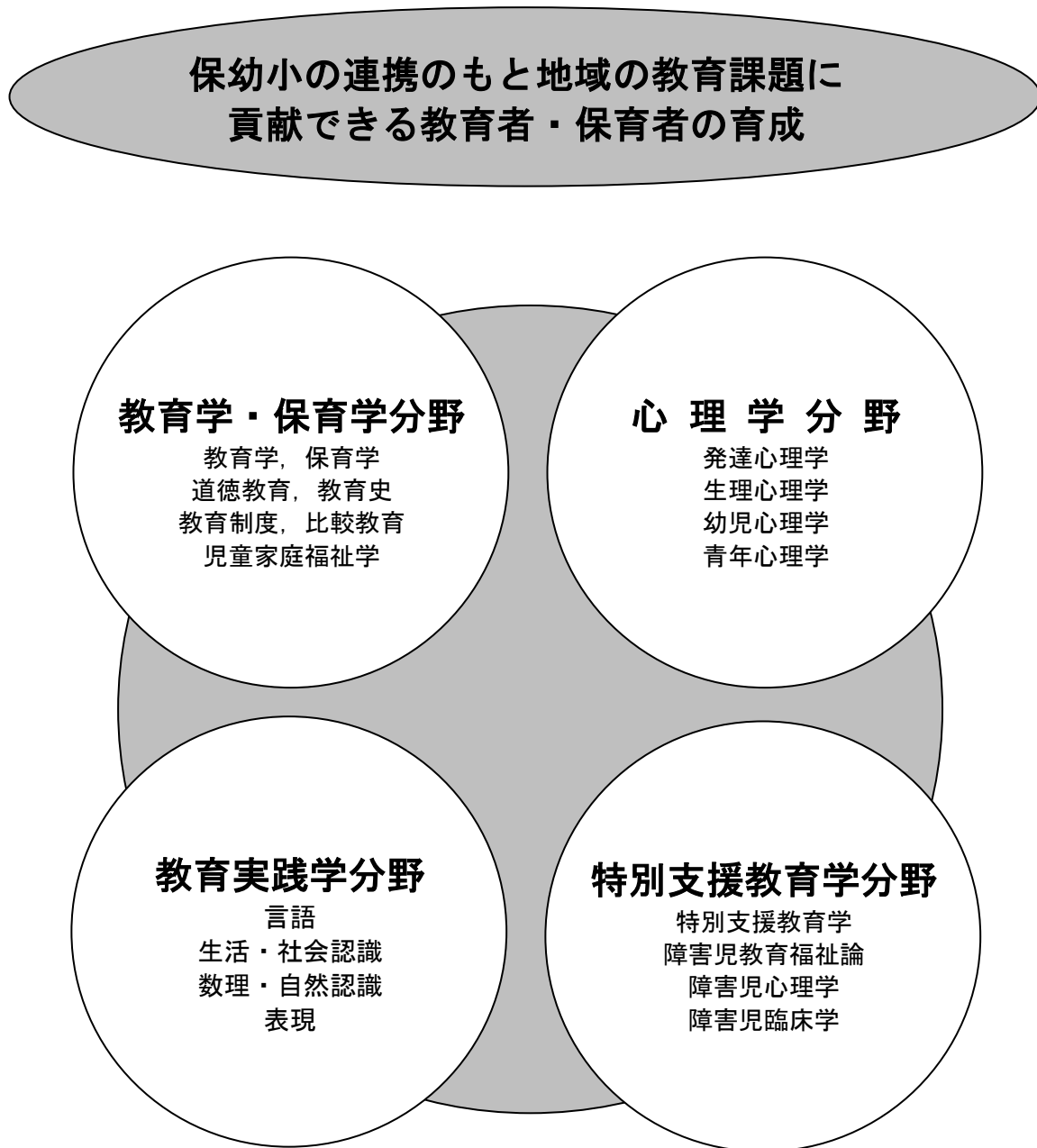
- 子どもが健やかに生まれ育つまちづくり
- 高齢者の豊かで実りある生活を支えるまちづくり
- 障がいのある人の自立と安心を支えるまちづくり
- 健康づくりの推進
- 地域保健・医療の推進
- 社会保障制度の適正な運営

- 学校教育の充実
- 生涯学習の推進
- 地域文化の振興
- スポーツ・レクリエーション活動の振興

- ものづくりと産業の振興
- 社会経済活動を支える基幹交通体系の充実
- 情報化・国際化の推進
- 中心市街地の整備
- 商業・サービス業の振興
- 観光の振興
- 雇用・就業の促進支援
- 農林水産業の振興
- 訪ねてみたいまちづくり

- 協働と住民自治の推進
- 持続可能なまちづくり
- 広域交流・連携の推進

教育学研究科児童教育学専攻
研究指導分野の構成【概念図】



- ・ 理論と実践の融合と総合化による自立的な対応力の育成
- ・ 高度な理論学習による問題の本質的理解のための能力の育成
- ・ 乳幼児期から児童期にわたる連続的な子どもの発達理解と対応能力の育成

教育学研究科児童教育学専攻の教育課程【体系図】

	修 士 論 文 の 作 成			
特 別 研 究	児 童 教 育 学 特 別 研 究 I			
	児 童 教 育 学 特 別 研 究 II			
応 用 科 目	教育・保育社会史研究 多文化保育研究 児童家庭福祉調査研究 心理学研究 心理学フィールド研究 教育実践研究 学習材開発研究 初等教育の理論と応用 特別支援教育学フィールド研究			
基 幹 科 目	教育学特講 I	発達科学特講 I	教育実践学特講 I	特別支援教育学特講 I
	教育学特講 II	発達科学特講 II	教育実践学特講 II	特別支援教育学特講 II
	保育学特講 I	発達科学特講 III	教育実践学特講 III	特別支援教育学特講 III
	保育学特講 II	発達科学特講 IV	教育実践学特講 IV	特別支援教育学特講 IV
	教育学・保育学分野	心理学分野	教育実践学分野	特別支援教育学分野
基 礎 科 目	児童教育学研究の基礎 I A		児童教育学研究の基礎 I B	
	児童教育学研究の基礎 II	児童教育学研究の基礎 III	児童教育学研究の基礎 IV	

福山市立大学教員定年規程

平成23年4月1日
福山市立大学規程第28号

(趣旨)

第1条 この規程は、教育公務員特例法（昭和24年法律第1号）第8条第1項の規定に基づき、福山市立大学の教授、准教授、講師及び助教（以下「教員」という。）の定年等に関し必要な事項を定めるものとする。

(定年)

第2条 教員の定年は、満65歳とする。ただし、市長が特別の事情があると認めるときは、この限りでない。

(定年による退職)

第3条 教員は、定年に達したときは、定年に達した日以後における最初の3月31日に退職する。

(改正)

第4条 この規程の改正は、評議会において出席の評議員の3分の2以上の同意を必要とする。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

福山市立大学教員定年規程の特例に関する規程

平成 23 年 4 月 1 日
福山市立大学規程第 29 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、福山市立大学教員定年規程（平成 23 年福山市立大学規程第 28 号）第 2 条ただし書の規定に基づき、教員の定年の特例について必要な事項を定めるものとする。

(定年の特例)

第 2 条 福山市立大学教員定年規程第 2 条の規定にかかわらず教員の定年は、次の各号に定める年齢を限度として定年延長することができる。

(1) 本学の教育研究の推進と管理運営の強化の観点から、特に必要があると市長が認める
とき 満 68 歳

(2) 福山市立大学の設置に伴い、その認可等に際し教員審査の対象となる教員を新規採用する場合で、平成 23 年 4 月 1 日におけるその者の年齢が満 68 歳以上のとき又は同日から起算して 4 年以内に満 68 歳に達するとき 学年進行完成年度の末日におけるその者の年齢

2 前 2 号に該当する者であつて、かつ、大学院設置構想のため特に必要があると市長が認める者は、更に 2 年まで定年を延長することができる。

(補則)

第 3 条 この規程の実施について必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

資料 5

教育学研究科の高年齢教員退職後の教員補充計画

調書 番号	職位	研究 領域	教員名	学位	開設時 (H27. 4) 年齢	開設3年目 (H29. 4)				開設4年目 (H30. 4) 年齢	開設5年目 (H31. 4) 年齢	開設6年目 (H32. 4) 年齢	開設7年目 (H33. 4) 年齢	備考
						採用・昇格計画	年齢	職位	教員の年齢構成					
1	教 授	心理	田丸	M *				教 授	年齢 (61～65) 教授 2 人 准教授 0 人 年齢 (56～60) 教授 2 人 准教授 0 人 年齢 (51～55) 教授 6 人 准教授 0 人 年齢 (46～50) 教授 0 人 准教授 2 人 年齢 (41～45) 教授 0 人 准教授 3 人 講師 1 人 年齢 (36～40) 教授 0 人 准教授 4 人					
2	教 授	教育・保育	森川	M *		教 授 2 人採用 准教授 4 人採用	51～55	教 授		52～56	53～57	54～58	55～59	
3	教 授	特別支援	中村	D			36～40	准教授		37～41	38～42	39～43	34～44	
4	教 授	教育実践	田淵	M			36～40	准教授		37～42	38～43	39～44	34～45	
5	教 授	教育・保育	八重樫	D			51～55	教 授		52～56	53～57	54～58	55～59	
6	教 授	教育・保育	高月	B			41～45	准教授		42～46	43～47	44～48	45～49	
7	教 授	心理	廣重	D			36～40	准教授		37～42	38～43	39～44	34～45	
8	教 授	特別支援	高橋	M				教 授	年齢 (46～50) 教授 0 人 准教授 2 人 年齢 (41～45) 教授 0 人 准教授 3 人 講師 1 人 年齢 (36～40) 教授 0 人 准教授 4 人					
9	教 授	教育実践	正保	D				教 授						
10	教 授	教育実践	斎木	D				教 授						
11	准教授	教育実践	平松	B				教 授						
12	准教授	教育・保育	劉	M *				教 授						
13	准教授	教育実践	大庭	M *				教 授						
14	准教授	教育・保育	吉長	M *				教 授						
15	准教授	特別支援	伊澤	D				准教授	年齢 (36～40) 教授 0 人 准教授 4 人					
16	准教授	特別支援	今中	M *				准教授						
17	准教授	教育実践	森	D				准教授						
18	准教授	心理	高澤	M *				准教授						
19	准教授	心理	井上	D				准教授						
20	講 師	教育・保育	小野	M *				講 師						

【資料5 添付資料】

高年齢教員が担当する
基礎科目「児童教育学研究の基礎Ⅰ～Ⅳ」の授業を補助する若手教員

授業科目名	担当教員（開設時年齢）	補助する教員（開設時年齢）
児童教育学研究の基礎ⅠA	森 川 輝 紀（ ）	吉 長 真 子（ ）
児童教育学研究の基礎ⅠB	高 月 教 恵（ ）	劉 郷 英（ ）
児童教育学研究の基礎Ⅱ	廣 重 佳 治（ ）	高 澤 健 司（ ） 井 上 洋 平（ ）
児童教育学研究の基礎Ⅲ	田 淵 五十生（ ）	正 保 正 恵（ ） 森 美智代（ ）
児童教育学研究の基礎Ⅳ	中 村 満紀男（ ）	伊 澤 幸 洋（ ） 今 中 博 章（ ）